

アートで地域活性化 ～参加型ワークショップによる分校と地域のつながりづくり～

地域パートナー
大久保分校スタートアップミュージアム

8班 コミュニティデザイン学科 阿波浩子 佐々木莉生 佐藤航世
建築都市デザイン学科 竹内柚寧 井上雄晴
社会基盤デザイン学科 石川航輝
グループ指導教員 藤原紀沙

01 背景

足利市にある大久保分校スタートアップミュージアム（以下：OBSM）は、2022年にオープンした現代アートの美術館である。若手アーティスト支援や子どもたちへの制作体験の提供などを行なっており、アートを通して交流の拠点となることを目指している。しかし始まつばかりの施設で認知度は低いため、地域の方々に認知され、親しんでもらうことが課題である。

02 目的

以上のような背景から、地域住民のアートへの関心を深め、地域住民とOBSMのつながりをつくるきっかけづくりを今年の活動の目的とした。そこで、アートへの関心をもつ地域住民以外も多く訪れる施設で、小さな子どもから大人まで参加できる作品制作体験ワークショップを行うこととした。完成した作品をOBSMに展示することでワークショップ参加者や地域住民によりアートを身近なものを感じてもらい、OBSMに足を運んでもらうきっかけづくりを目指した。

04 ワークショップの実施と参加者への調査

○場所の選定

- ・不特定多数が集まる
- ・天候に左右されない

ヨークタウン足利の
無印良品が開催する「つながる市」
に出店できることに

9/29

10/24

11/19

12/19

- ・無印良品との打ち合わせ
→古着活用案の提案
- ・素材や手法の選定

- ・ワークショップリハーサル
- ・絵の具の調整
- ・汚れ対策を練る



写真1 手法の選定



写真2 リハーサルの様子



写真3 当日の様子



写真4 タペストリー設置時の様子

○広報活動

チラシを作成し、市内の小学校に配布した。また、無印良品側でもチラシを作成していただいたほか、OBSMのSNSにおいても発信していただいた。



小学校に配布したチラシ
写真6

11/19

・ワークショップ当日
場所: ヨークタウン足利
参加人数: 約90名

12/19

・タペストリー作成・設置

○ワークショップ当日

二階の遊び場に来る親子連れを中心に集客を行った。繰り返し参加してくださいの方もあり、参加者にアートを楽しむ機会を提供できた。



○ワークショップ当日

二階の遊び場に来る親子連れを中心に集客を行った。繰り返し参加してくださいの方もあり、参加者にアートを楽しむ機会を提供できた。



05 分析結果

OBSMを知っているか



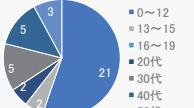
どこから来たか



また参加したいか？

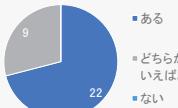


参加者の年齢

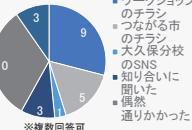


※1人が複数人分記載している場合もある。

アートに関心があるか



何で知ったか



※複数回答可

ワークショップの実施時、参加者にアンケートの協力をしていただきました。回答数は31人であった。

- ・OBSMを知らない人が多かったことから、今回のワークショップはOBSMを知らない人にも知つらうきっかけになったと言える。
- ・通りがかりでワークショップを知った人が多かったということから場所の選定がねらい通りであった。
- ・ほぼ全参加者がまたワークショップに参加したいと回答し、アートに関心を持つきっかけづくりとなった。
- ・そもそもアートに関心のある人しか参加していなかったので、関心のない人へのアプローチができなかった。
- ・ご高齢の方に声を掛けた際、「若い子がやるものだから」と断られてしまったこともあった。

06 提案

アンケートの分析結果などから

- ・OBSMの存在がまだ人々に知られていない
- ・アートに関心のある人は一定数いる
- ・アートイベントへの関心度も高い
- ということが分かった。今後もワークショップ等のイベントを継続的に行なうことで、OBSMの存在をアピールでき、これまで関心のなかつた方々にもアプローチしていくのではないかと考える。

1月23日(火)、OBSMに作製したタペストリーを展示し、地域の広報誌に取り上げていただく予定である。私たちの成果や取り組みを通して、OBSMについての、より多くの人の周知が見込める。

今後の展望としては、今回制作したタペストリーを素材とし、OBSMオリジナルのポストカードやチラシなどの二次的作品を作ることで、アートやOBSMへの関心を高めていきたいと考えている。